

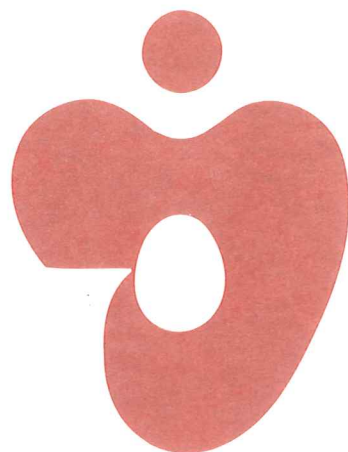
ISSN 1344-7505

九州看護福祉大学紀要

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare

Vol. 3 No. 1

2001



九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

目 次

巻頭言 第三巻によせて	田中 晴人	1
1. 論 文		
Psychopsy 覚書 — ある行路人の心理検査資料からの眺望 —	熱田 一信	3
Contradictions in Explanations of Socio - Economic Modernization of Production	Sutherland, Allan	13
障害者福祉と平等論	竹原 健二	39
Russo - Japanese Disputes over the Four - Island Group off Hokkaido and the Kurile Islands	Henry H. Han	47
日本古代における儒学聖人観の受容	藤原 (王) 文亮	59
Effects of Rare Earth Metals on Blood Coagulation and Enzymatic Activity	Takayuki Funakosi, Kouji Furushima, Hideaki Shimada	69
ドイツ語における「テーマ・レマ関係」の析出 — テクスト言語学に寄せて —	山本 務	75
2. 研究ノート		
Reproductive Health/Rightsの概念の包括性とその意義 — 歴史・主体・関連概念より考察する —	浅野美智留・佐藤 香代	93
公衆衛生福祉局 (GHQ/SCAP, PHW) の成立と占領政策 (1)	金 蘭九	105
脳活性化訓練事業における咀嚼の効用 (第1報)	久佐賀眞理・江頭洋祐・中村京子・上村妙子・尾方三津子・山下久美子	115
Western Influence on the Development of Midwifery Practice in Japan — A View of the Political Context —	Kayo Sato	121
高齢者の余暇活動に関する研究 — 熊本市と東京23区における比較 —	西口 宏美・深谷 尚生・齋藤むら子・和田 要	129
自閉症児の教育空間の計画に関する研究 — 情緒障害学級教室の現状分析と物理的空間の構造化 —	西島 衛治	137
ケアの質と法的責任 — 褥瘡裁判を通して —	橋本 久子	153
緩和ケア病棟におけるベッドサイド・ミュージックに関する一考察	松本 典子	161
3. 事例・実践研究		
介助作業の標準化に関する研究・その2 — 体位変換作業におけるベッドの高さと作業員に対する負担との関連性 —	加藤 麻樹	169
障害者福祉における養護学校の社会資源化に関する研究 (2) — 特殊教育諸学校がもつ機能について (その1) —	柴崎 建・牛野 忠男・水間 宗幸・稲葉 一文	175
学習障害児・者の地域支援ネットワークづくりへの取り組み (その1) — 青年期学習障害児の自助グループ形成活動を通して —	水間 宗幸・柴崎 建	185
4. 事例報告・調査報告		
有明海の環境運動 (1) — 荒尾市・海ガメを呼び戻す会 —	安藤 学	193
Environmental Problem in the North of Thailand — Role and Function of the Royal Project —	安藤 学	199
中央ガンダーラの遺跡市 (現西北パキスタン) パルシャ (跋虜沙) の位置について	久我 篁子	205
看護における肺癌のターミナルケア — 緩和ケアの現状と課題 —	田島 節子・江頭 洋祐	211
5. 資料紹介・文献紹介		
九州看護福祉大学における看護学科学生に対する点字学習の意味 — 点字を習った学生の声をもとに —	中村 哲夫	217
看護教育の歴史と現状 (1)	山崎 雅代	225
病院・病床環境に関する文献的考察	山邊 素子	245
6. 海外情報・海外報告		
中国の軍人及び軍人家族の優遇弔慰制度について	藤原 (王) 文亮	255
執筆要領		263
業績リスト		264
編集後記		268

巻 頭 言

－「紀要」第3巻の発刊に当たって－

本学は2001年4月には完成年次を迎える。本誌もここに第3巻を発行するに至った。この第3巻の投稿論文数も増えている。開学以来本誌編集に携わってきた者として心強い確かな手応えを感じている。また他大学や他施設からの本誌に対する評価も確実に上がっていることを耳にするなど喜ばしく思っている。

昨年の本学は教員の国際的動きが活発な年であった。長期の海外招聘、海外での招待講演、あるいは近隣諸国との合同学会の開催など、次の時代を睨んだ研究と交流が行われ出した。これも本誌の更なる充実につながることを確信する。

21世紀は保健・医療・福祉統合の時代である。本学はその時代的变化の中で、看護・福祉両分野を統合的に見とおした高等教育機関として出発した。だが少子高齢化の人口革命、次々に出てくる先端医療や科学的成果の中で、それぞれの頭に浮かび、思考し、研究や探究することに限界はない。学する心、科学する心に終わりはない。その意味では本誌は教員のウォーミング・アップの場を提供してきた。またその場の潤沢な適切な提供という思想が開学以来本誌編集に携わる者の力となった。本誌はここに3巻発行したに過ぎない。しかし九州の臍に位置する本学の発信がこれからの時代に少しでも寄与することを願ってやまない。

2001年3月吉日

九州看護福祉大学

紀要編集委員会 委員長 田 中 晴 人

編集後記

巻頭言で述べたように、本学は1998年に開学し、ここに「本誌」を含めて第3巻を発刊するにいたった。まず発刊にご協力頂いた本学教員、職員、紀要委員の方々に深謝したい。

本学の将来構想に、近隣諸国において学術的友好の交流をはかることが掲げられている。教員の活発な研究成果を世界に発信することは重要であり、その意味での紀要の意義と役割は大きい。前号では論文内容に応じ、委員がそれぞれ類別を行った。今回も同様の分別法にしたがったが、昨年よりもより簡素化に力を注いだ。

さて当委員会からのお願いであるが、論文作成の際、紀要巻末にある「執筆要項」を熟読して頂きたい。本誌に関しても、数論文に全体にわたり訂正を求め、それに多大な時間を費やすこととなった。第4巻投稿時には十分な配慮をお願いし、執筆要項に沿わないものは、次回投稿をお断りすることもあり得ることを付記しておきたい。

第4巻においても、潤沢でかつ学術的にも高度な論文投稿をお待ちしている。

2001年3月

紀要編集委員会一同

紀要編集委員（文責）

委員長	田中 晴人（看護学科）
委員	Henry Han（社会福祉学科）
委員	佐藤 香代（看護学科）
委員	竹原 健二（社会福祉学科）

九州看護福祉大学紀要 第3巻 第1号

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare Vol.3 №1

2001年3月

発行者 九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

〒865-0062

熊本県玉名市富尾888番地

888 Tomio, Tamana City, Kumamoto Pref.

Japan. Zip 865-0062

T E L 0968(75)1800

F A X 0968(75)1811

紀要編集委員代表 田中 晴人

印刷所 株式会社 有明印刷 〒865-0022

熊本県玉名市寺田123-1

T E L 0968(73)2055

F A X 0968(72)3504
